

いわた
文化財だより 第249号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和7年12月1日発行

目次

- 磐田市市制施行 20 周年・
見付学校開校 150 周年記念講演会 … P1～2
- イワタ深掘り 文化財だより Ver. ① … P3
- 磐田の歴史自由研究コンクールの表彰式を
おこないました P4
- コラム『古墳造りの大変さ』森本司 … P4

磐田市市制施行 20 周年・見付学校開校 150 周年記念講演会

旧見付学校と見付宿

～150 年の歴史から現在、未来を考える～

令和7年 12月6日(土)

開演 13:30～16:00
(開場 13:00)

場所 ワークピア磐田
(磐田市見付 2989-3)

講師 新妻淳子氏
(静岡文化芸術大学准教授)

定員 200 人

参加費 無料

申込 要申込



電子申請
(左二次元コード)
または電話で
文化財課へ(0538-32-9699)



問合せ 磐田市教育委員会文化財課 TEL:0538-32-9699

見付学校開校 150 周年を記念し、開校から現在にいたるまでの歴史、そして未来の旧見付学校と見付宿をテーマに講演会をおこないます。

当日は、静岡文化芸術大学准教授の新妻氏の講演のほか、磐田北小学校の太鼓部による演奏、「史跡旧見付学校 附 磐田文庫保存活用計画^{つげたり}」についての講演を予定しています。

ぜひ、来場ください。

旧見付学校とは？

旧見付学校は、明治8年(1875)に新築落成した、現存する国内最古の木造擬洋風小学校校舎です。

旧見付学校は校舎の建物だけに価値があるわけではなく、明治時代から同じ場所に建っており、当時の校庭もそのまま残されていることから、昭和44年に国から史跡に指定されています。



開校当時の様子
(明治8年8月 カラー補正写真)

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画とは？

今回の計画は、旧見付学校の価値をさまざまな角度から見直し、その価値を再発見するとともに、今後その価値をどのように生かしていくか、方針を作成しました。

まず、大きな目標として次の4点をあげました。

- 近代初等教育の出発点として、国民共有の財産であり、これを確実に引き継ぐ。
- 磐田市における地域教育の原点であり、学びの場として活用する。
- 地域の住民のまちのシンボル「見付の5階」(※)を一層親しみやすいものとする。
- ふるさとを愛し、郷土を誇りに思うところを醸成する。

次に、具体的には4つの項目に分けて私たちが今後進めていく事業を洗い出しています。

(※) 明治16年に4階建てから5階建てに増築

①保存管理の基本方針

ここでは、校舎などの建物や土地そのものを確実に保存し、またなるべく劣化しないような対策をおこないます。修理や耐震補強も計画的におこないます。

②整備の基本方針

校舎に価値があることは知られていますが、土地に価値があることはあまり知られていません。

そこで、校庭や運動場など、土地全体で価値を体感できるような環境整備をおこないます。

③活用の基本方針

授業体験など、小学生を中心とした活用を継続しつつも、これまでおこなってきた活用事業を見直します。また寄贈品や沿革誌などの資料整理や広報などの情報発信をおこないます。

④運営体制の基本方針

担当職員やボランティアなどの人的資源の育成をおこないます。また、市役所内の関係機関や民間団体との連携を強めます。



石垣の3D計測画像(部分)



現在も続けている授業体験
(初回の平成5年当時の様子)

「史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画」は、磐田市公式ホームページで閲覧いただけます。資料編、概要版もあわせて公開しています。右、二次元コードからご覧ください。



磐田市は今年で合併から20周年を迎えました。毎年恒例の文化財課夏の企画展も20周年をテーマに、市制施行から現在までの間に発掘調査や整理作業がおこなわれた埋蔵文化財を展示しました。

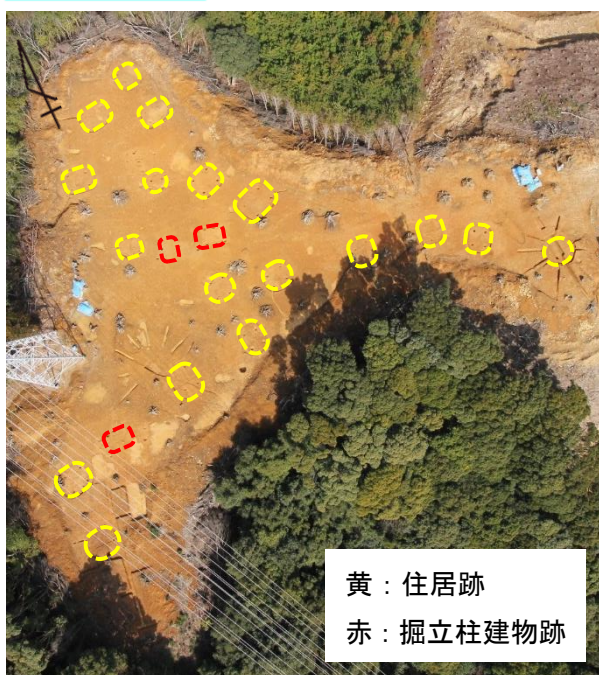
今号から、企画展で展示した中からピックアップして文化財を紹介していきます。今回は向笠地区の谷田南遺跡・谷田南古墳群です。

谷田南遺跡・谷田南古墳群とは

磐田原台地東縁に立地する遺跡です。平成27年度に、山砂利採取事業に先立ち発掘調査をおこないました。

その結果、弥生時代の集落跡や、古墳時代終末期に造られた円墳が見つかりました。

調査結果



調査範囲全景



谷田南遺跡・谷田南古墳群の周辺は、民有地のため見学できません。

<弥生時代>

住居群は、弥生時代の後期に、同時期に一気に設営されたことが分かっています。

発見された18軒の住居は、3、4軒の住居に倉庫のような掘立柱建物が伴う複数のグループに分類が可能です。このような集落の構造は、磐田原台地上の弥生時代の集落に共通する集落設営の在り方です。集落全体を発掘した本調査により明確となりました。

また、うち17軒の住居跡に焼失の痕跡があり、火災に遭って集落ごと廃棄されたと考えられます。火災の原因は不明ですが、完形の土器がほとんど残されていないことから、家財道具を持ち出したうえで意図的に火を放ったような様子も想像されます。

<古墳時代>

これまで3基の古墳が確認されていましたが、この調査によって1基の古墳が発見されました。

2基の古墳は、どちらも横穴式石室を伴う直径10m以下の円墳でした。石室内部から須恵器^{すえき}が出土しており、それらの年代から、7世紀末から8世紀前半の古墳であると考えられます。



4号墳石室（南から撮影）



磐田の歴史自由研究コンクールの表彰式をおこないました！

文化財課イメージキャラクターともちゃん

10月23日、磐田市役所にて『磐田の歴史自由研究コンクール』の表彰式をおこないました。応募作品のうち特に優秀な5名の小学生に、山本教育長から表彰状と記念品が授与されました。

磐田の歴史自由研究コンクールは、市内の小学校5・6年生を対象に、郷土への関心を高め、こどもたちの「自主性」「主体性」を持った学びを支援するため開催しています。今年度は34名の応募がありました。



受賞作品を持って記念撮影

市内全域や自分の住んでいる身近な歴史、文化、偉人など、こどもたちそれぞれの興味のあるさまざまなジャンルの力作が集まりました。来年度も開催を予定していますので、ぜひチャレンジしてください！

職員リレー コラム

古墳造りの大変さ

森本 司

現在、私は向陽中学校の敷地内で中原B古墳群遺跡の発掘調査に携わっています。この古墳群は中学校の敷地やその周辺に広がる12基の円墳で構成され、その内の12号墳（直径約10m）を発掘調査しました。これまで詳細が不明でしたが、今回の調査により古墳時代後期から造られる横穴式石室と呼ばれる埋葬施設を持っていることがわかりました。この石室は、有力者の遺体を納める部分を石を積んで造り、入口を塞いだ石や土を取り除くことで内部への出入りを可能にしています。

12号墳は、残念ながら石室の天井は残っていませんでしたが、約30cmの丸い石が5段余り積まれた側壁と約50cmの板石状の石を2段積んだ奥壁が残っていました。古墳の発掘調査では、石室を構成する石は写真や図面などで記録をおこなったのちに取り外していきます。



今回の古墳でも、同様に石を取り外していったのですが、石室の石が重たいということに驚きました。中には、男性2人でやっと持ち上げるほどの重量のものもありました。

当時の人々は、こんなにも重たい石を古墳まで運び、石室になるように上手に積んでいたと思うと大変な作業だったと実感するだけでなく、1000年以上経ても崩れない古墳造りの技術に驚きました。

調査は12号墳以外にも学校敷地内にある古墳を調査していく予定であり、古墳の特徴を後世に伝えられるよう引き続き調査を進めていこうと思います。

検出した横穴式石室を記録する様子（写真手前が石室の入口）

編集後記 私がこどもの頃に、歴史の自由研究があったならば『熊野の長藤』か『小学校の下の遺跡』を題材にしていそうだと思います。来年はどんな作品が届くか楽しみです。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより



検索